

日本複合・防音床材工業会 令和元年度通常総会を開催

▼日本複合・防音床材工業会（海堀哲也会長）の令和元年度通常総会が浜松町東京會館で開催



挨拶する海堀会長

今年度は杉を主体とする 床暖房対応フローリングの開発に力を

日本複合・防音床材工業会（海堀哲也会長）は6月11日に通常総会を開いた。

総会後は安藤直人 東京大学名誉教授が講演を行い、その後は懇親会が開かれた。

総会の冒頭、海堀会長は人口減少による人手不足や災害リスクへの対応など生産現場での不安要素が増えていることに触れたうえで、「既に賃貸アパートが様々な問題から失速するなかで、今年10月に予定される消費増税以降、大手ハウスメーカーがどのように動くか注視している。」と需要動向への警戒感を示した。

その上で「国産針葉樹合板の生産能力も年々増加し、さきごろ新たなパーティクルボード工場の設立も発表された。

大きな情勢の変化が業界内外で続いており、我々もそれに対応していかななくてはならない。

工業会として取り組んでいる技術開発としては、今年度は杉を主体とする床暖房対応フローリングの開発に力を入れていきたい。」と挨拶した。

工業会は、2016年度から国産材台板を使用した床暖房対応の技術開発を進めており、2018年度は国産材台板を基材とする床暖房対応複合フローリングを使った熱耐久試験を行うとともに、今年2月18日付で「複合フローリングの床暖房への適合性試験規格（工業会規格）」を策定した。

このうち、熱耐久試験は、日本合板工業組合連合会が提供した3種類のスギ主体の国産材台板を会員メーカーの工場ですべて、フローリング材に加工して実施した。

国産材台板については、いずれの試験体も規格値を満足できなかったが、それぞれの台板の解決すべき課題が整理された。

今年度はこの技術開発の課題ごとに検証試験による効果やデータの分析を実施していくこととしている。

なお、専務理事の選任では日比野義光氏が退任し、新たに阿久津聡氏が7月1日から専務理事に就任することが承認され決定した。

参考記事：日刊木材新聞社